

2013年6月28日 全5頁

Indicators Update

5月鉱工業生産

総じて堅調、生産の持ち直し続く

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年5月の生産指数は、前月比+2.0%と4ヶ月連続の上昇となり、市場コンセンサス（同+0.2%）を大きく上回った。生産は持ち直しが続いている。出荷指数は前月比+0.8%と3ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同▲0.3%と2ヶ月ぶりに低下したことから、在庫率指数は同▲2.1%と2ヶ月連続の低下（改善）となった。
- 製造工業生産予測調査によると、2013年6月の生産計画は前月比▲2.4%、7月は同+3.3%となっており、先行きに関してはやや減速を見込んでいる。業種別に見ると、6月に関しては大半の業種が減産を見込んでおり、なかでも鉄鋼業と輸送用機械工業が全体を押し下げる見通し。一方、7月に関しては輸送用機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業の大幅な増産により生産が持ち直し見込みとなっている。
- 先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと予想する。昨年末からの円安の効果がラグを伴って本格化することで、輸出数量は増勢を強める見込みであり、生産を牽引する。加えて、2012年度補正予算執行による公共投資の増加や、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、内需は年度末にかけて加速し、生産を押し上げる公算が大きい。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年					2013年				
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
鉱工業生産	▲1.4	▲2.2	0.3	▲1.0	1.4	▲0.6	0.9	0.1	0.9	2.0
コンセンサス										0.2
DIR予想										0.2
生産者出荷	▲0.1	▲2.5	0.3	▲1.6	3.7	1.2	1.8	▲0.8	▲1.4	0.8
生産者在庫	0.4	0.0	0.0	▲0.4	▲1.3	▲1.6	▲1.2	▲0.7	0.8	▲0.3
生産者在庫率	0.2	2.6	▲0.7	0.0	0.0	▲3.8	▲2.6	2.3	▲5.1	▲2.1

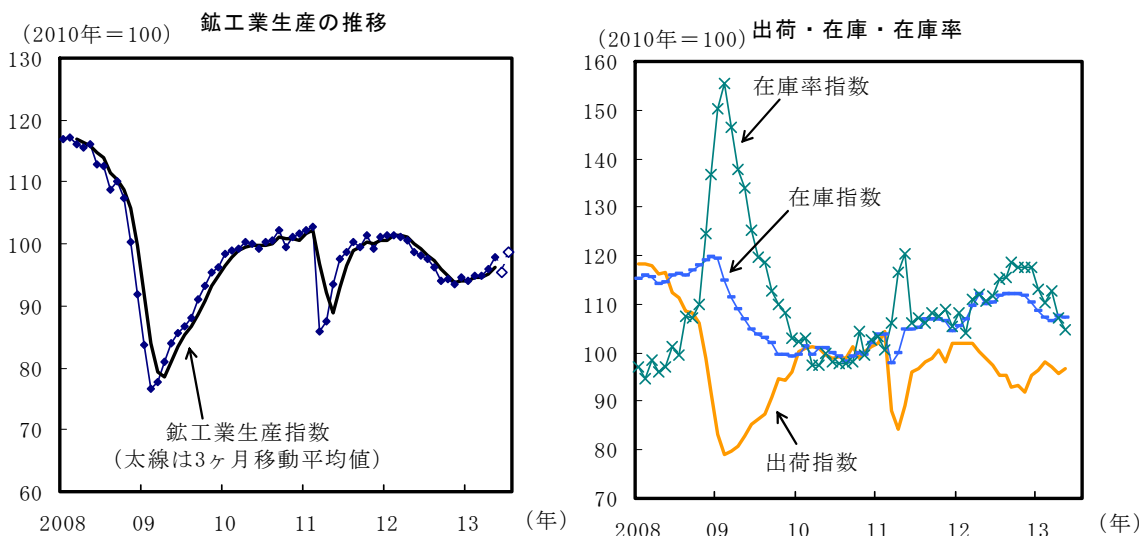
（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は4ヶ月連続の上昇

2013年5月の生産指数は、前月比+2.0%と4ヶ月連続の上昇となり、市場コンセンサス（同+0.2%）を大きく上回った。生産は持ち直しが続いている。出荷指数は前月比+0.8%と3ヶ月ぶりの上昇となり、在庫指数は同▲0.3%と2ヶ月ぶりに低下したことから、在庫率指数は同▲2.1%と2ヶ月連続の低下（改善）となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移



(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。

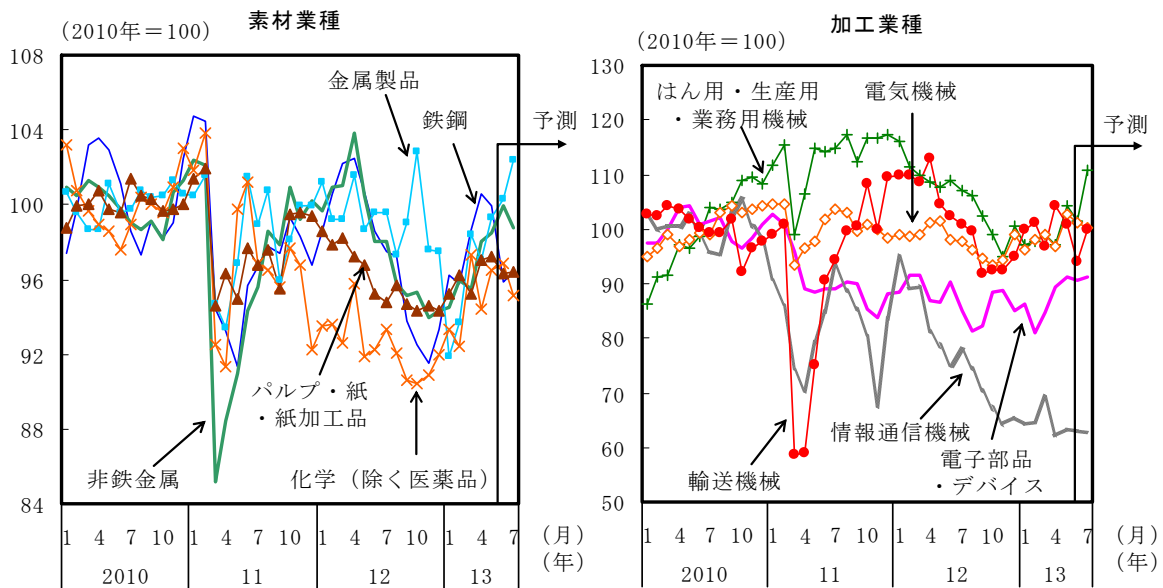
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

5月の生産は多くの業種で増加

5月の生産を業種別に見ると、全15業種中、12業種が前月から上昇しており、総じて堅調な内容であった。中でも、電力向けの「蒸気タービン部品」、「ボイラ部品」の生産が増えたはん用・生産用・業務用機械業工業（前月比+7.6%）、「太陽電池モジュール」が増加した電気機械工業（同+6.1%）などの加工組立業種の上昇幅が大きく、全体を押し上げた。素材業種に関しても、それぞれの業種の上昇幅はそれほど大きくないものの、鉄鋼業（同▲3.4%）を除く全ての業種で前月から上昇しており、全般的に持ち直し基調となっている。一方、先月時点で減産を見込んでいた輸送用機械工業は、国内販売の減少と、欧州・中国向け輸出の減少により同▲3.4%の低下となった。

製造工業生産予測調査によると、2013年6月の生産計画は前月比▲2.4%、7月は同+3.3%となっており、先行きに関してはやや減速を見込んでいる。業種別に見ると、6月に関しては大半の業種が減産を見込んでおり、なかでも鉄鋼業と輸送用機械工業が全体を押し下げる見通し。一方、7月に関しては輸送用機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業の大幅な増産により生産が持ち直し見込みとなっている。ただし、全体として一進一退の動きを見込む中、電気機械工業、情報通信機械工業に関しては6、7月とも減産を見込んでおり、慎重な見通し。なお、6月の生産が予測調査通りの結果となった場合、4-6月期の生産は前期比+1.8%と、2四半期連続の増加となる。

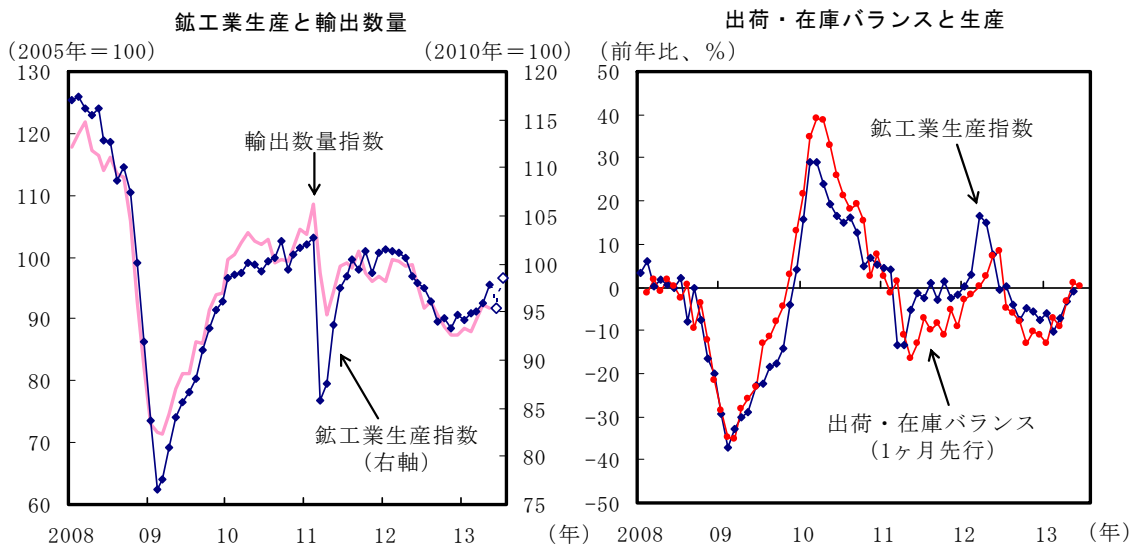
主要業種の生産推移



生産は輸出の増加に牽引されて増加傾向が続く見通し

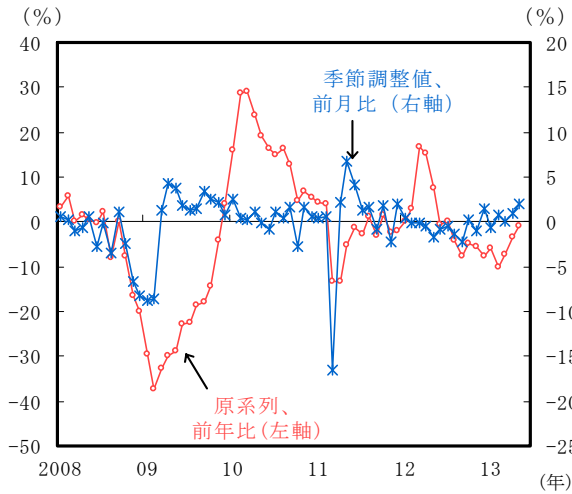
先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと予想する。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなるが、昨年末からの円安の効果がラグを伴って本格化することで、輸出数量は増勢を強める見込みであり、生産を牽引する。加えて、2012年度補正予算執行による公共投資の増加や、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、内需は年度末にかけて加速し、生産を押し上げる公算が大きい。また、出荷在庫バランスに改善の動きが見られるように、在庫調整による生産の下押し圧力が解消しつつあることも生産増加にとって好材料である。

輸出数量、出荷・在庫バランスと生産

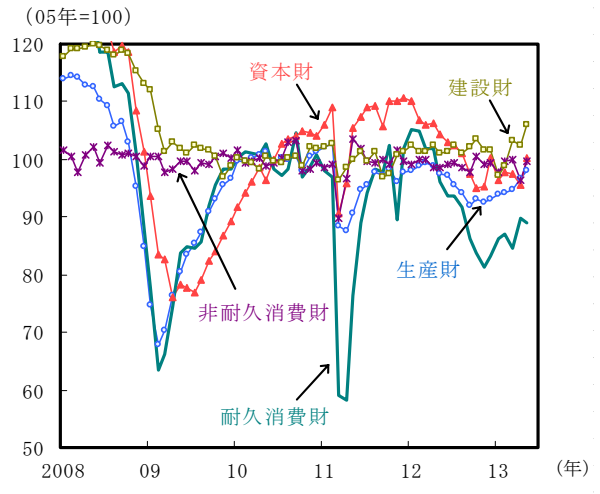


概況

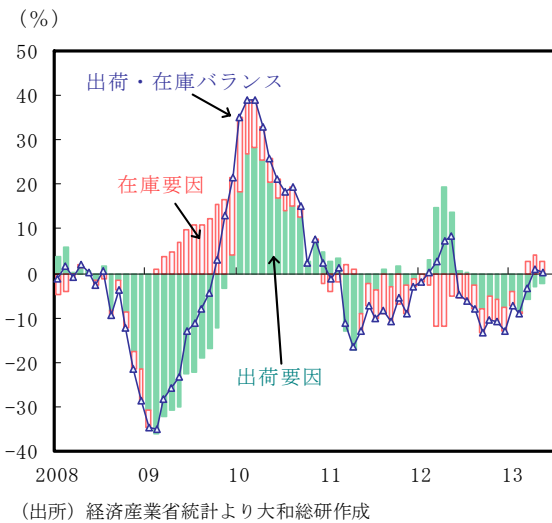
鉱工業生産指数の変化率



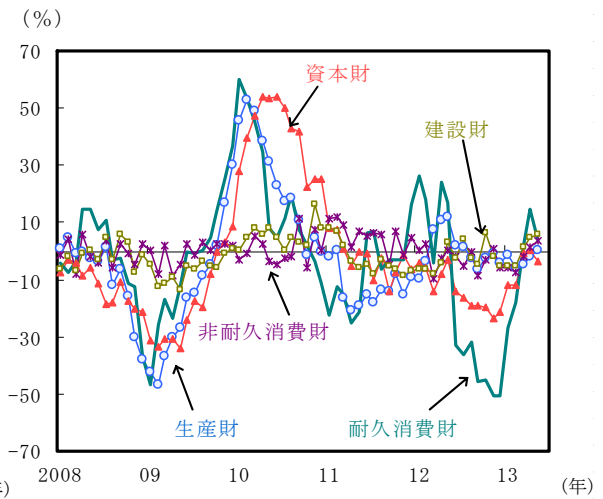
財別の生産指数 (季節調整値)



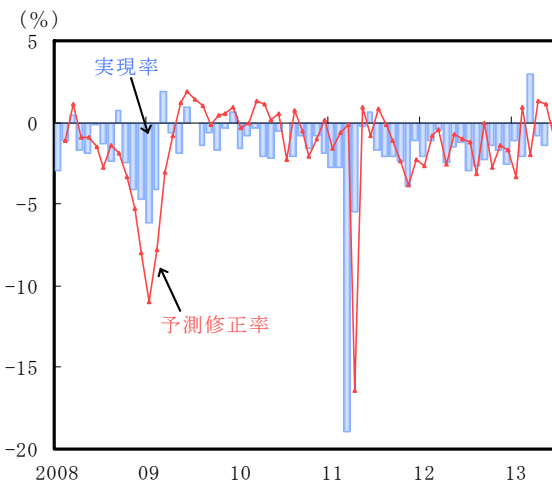
鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス



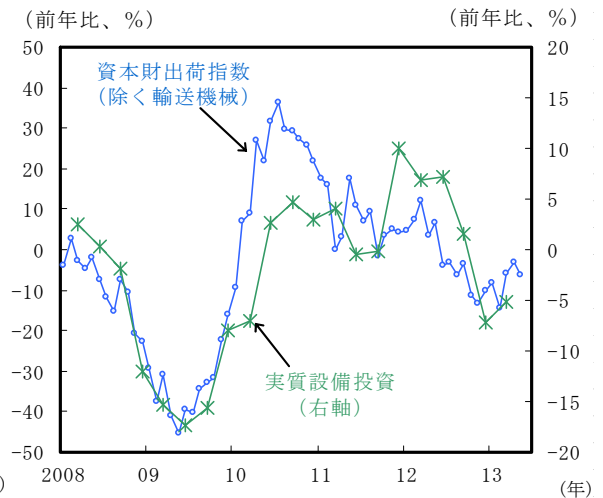
財別の出荷・在庫バランス



予測修正率と実現率

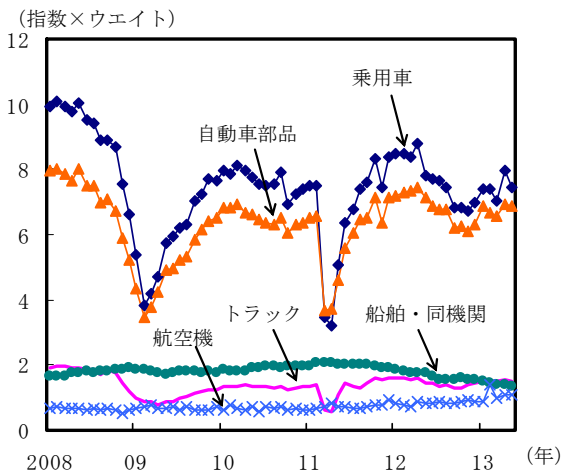


資本財出荷 (除く輸送機械) と設備投資

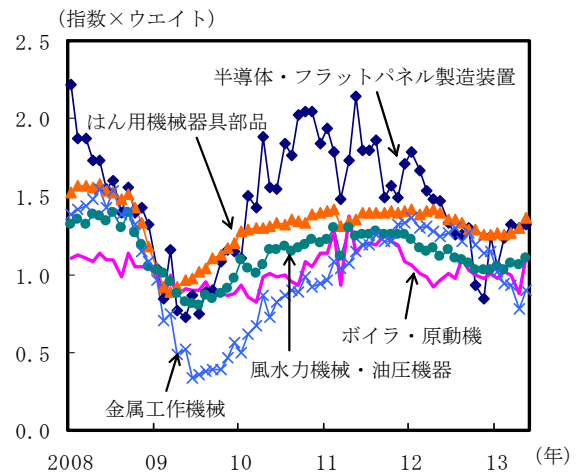


主要産業の生産動向(季節調整値)

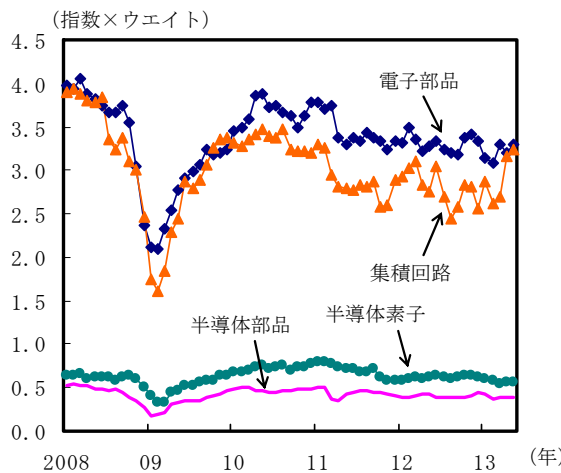
輸送用機械



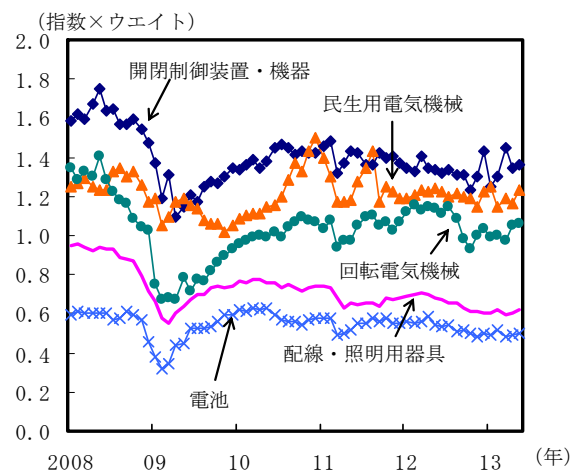
はん用・生産用・業務用機械



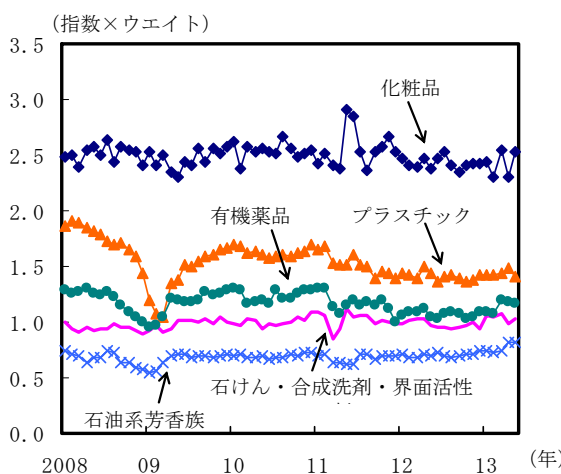
電子部品・デバイス



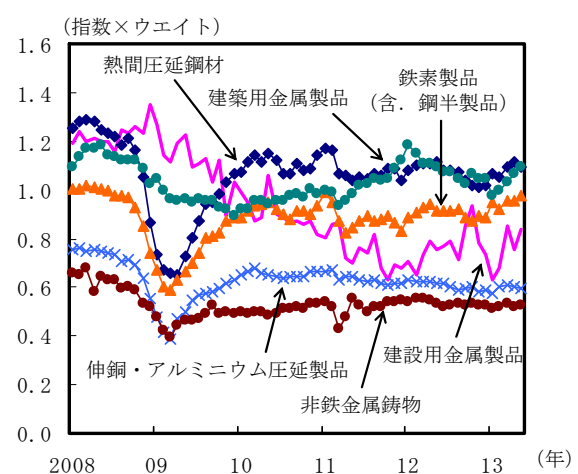
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成